

男女共同参画

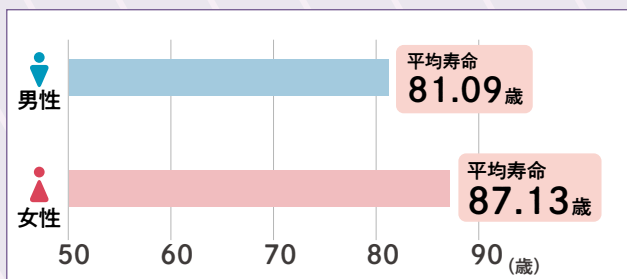
介護から考えるジェンダー

高齢化社会が進む中、介護は個人だけでなく社会全体で支えるべき課題となっています。しかし、介護に関する負担は依然として女性に偏っており、特に仕事と育児・介護を担う「ワーキングケアラー」の実態は深刻です。

この状況を変えるためには、男女共同参画の視点から、男性も介護に積極的にに関わり、女性もキャリアを形成しながら互いに両立できる環境を整えることが求められます。どのようにして、ジェンダー平等を実現し、介護を支える社会を作っていくのか、一緒に考えましょう。

関人権・市民協働課（内線 472）

令和6年の平均寿命



介護は個人で抱える
課題ではなく、社会全体で
支えることが必要



令和6年の平均寿命は、女性87・13歳、男性81・09歳と、人生100年時代を迎えています。平均寿命が伸びたことにより、個人の生き方も多様化するなど、社会が大きく変化しています。今後、さらなる高齢化の進行により、家族の介護をする人の増加が予測され、介護は個人で抱える課題ではなく、社会全体で支えることが必要となってきます。

高齢化による家族介護の増加

※参考資料 男女共同参画白書 令和6年版

男女共同参画フォーラム
Be in ひろっぱ



認知症が私たちが
家族にくれたギフト

とき

2月7日(土)、午後2時～4時

ところ

すばるホール

参加費
無料

映画『ぼけますから、よろしくお願いします。』の監督、信友直子^{のぶとも なおこ}さんを講師に迎えます。

信友直子さんは、「前向きで、社交的で、冗談好き。人生を楽しむ達人」と語る母の異変に気づき、「認知症」と診断される頃からカメラを回し続け、その進行と老いに苦しむ母、当たり前のように



女性に偏る

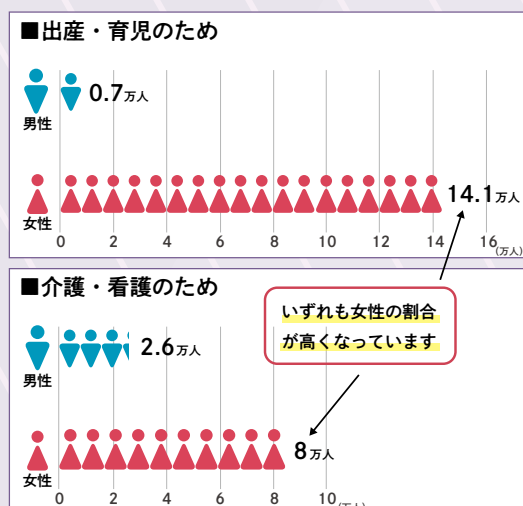
育児・介護などの負担

働きながら介護をする「ワーキングケアラー」が増加し、育児と家族の介護というダブルケアを担う人もいるなか、依然として育児・介護などの負担は女性に偏っています。

男女共同参画白書 令和6年版によると、令和3年10月～令和4年9月に前職を辞めた人について、離職理由別に見ると、「出産・育児のため」とした人は、女性14.1万人、男性0.7万人、「介護・看護のため」とした人は、女性8万人、男性2.6万人となっています。

「出産・育児のため」、「介護・看護のため」を理由とした離職者は、いずれも女性の割合が高くなっています。

令和3年10月～令和4年9月に前職を辞めた人
(離職理由別) ※男女共同参画白書 令和6年版



一人一人が希望する生き方を 実現できるように

今後の生産年齢人口の減少を踏まえると、介護離職は大きな問題です。

介護離職は企業にとっても大きな損失であるため、女性が不本意に離職することなく、キャリアを形成していくために、仕事と家事・育児・介護などの両立支援や男女それぞれに応じた支援体制が求められます。

また、地域に暮らす人々が、介護だけにとられず、一人一人が希望する生き方を実現できるように、ともに助け合える環境づくりを考えていきましょう。

仕事と育児・介護を両立するために

まずは、育児・介護休業制度の仕組みや支援体制を知ることが重要です。

国の制度を活用しながら、誰もが安心して働き続けられるよう、業務の効率化や共有化など事業者や従業員がそれぞれの立場で働き方を工夫してみましょう。



育児休業制度
特設サイト



介護休業制度
特設サイト



母を介護する父の姿を見つめてきました。

介護の負担は女性が担うことが多いという現状がある中、認知症になった母を介護する父の姿や「老老介護」、信友さんが暮らす東京から実家の広島・呉への「遠距離介護」を振り返って、どのようなことを感じたのかお話ししていきます。

参加費 無料

定員 100人

申し込み 2月4日(水)までに、メールまたは左下図の申し込みフォームに、氏名、電話番号、参加人数、託児の有無を明記し、人権・市民協働課（内線472）へ

✉inken@city.tondabayashi.jp



へ（申し込み多数の場合抽選、電話申し込み可）

※定員に満たない場合は、当日先着順。

※手話通訳・要約筆記あり。

※男女共同参画センターウィズ登録団体のパネル展示も同時開催します。

